

平成23年度 木更津市社会教育委員会議 第4回定例会 議事録

日時：平成24年3月21日（水）

午後1時30分～4時00分

会場：木更津市役所四階会議室

出席者 蘇我委員、榛澤委員、武田委員、石井委員、宮崎（恵）委員  
平野（則）委員、李委員、吉田（裕）委員、野中委員  
内田委員、伊藤委員、平田委員、石邑委員  
（13名）

事務局 初谷教育長、石井教育部長、北原次長、根本参事兼生涯学習課長、  
原主幹、水越主査

傍聴者 坂井真貴子（県社会教育委員）

1. 開会

事務局)

定例会を開催いたします。本会議は木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されております。本日の傍聴人は1人です。報告いたします。また本日の会議成立に関してですが、委員18名中、13人の出席であります。5人の欠席です。社会教育委員会議運営規則第3条第2項の規定により会議の成立を報告いたします。

それでは、はじめに蘇我議長に挨拶をお願いいたしますと思います。

蘇我議長)

こんにちは、4回目の定例のご案内をいたしましたところ御多用の中ご出席頂きありがとうございます。普段と少し会議会場が違うと思われる方もいると思いますが、本日は千葉大から関谷先生をお招きし講演を頂き、皆さんで来年度に向けて勉強しようということになっております。前回の会議で皆さんからいろいろな意見を頂いた本日は続きとなります。「市民と協働する社会教育とは」というテーマで本日はご講義を頂きます。この協働という言葉はこれからの重要な言葉となってくるような気がいたします。

最近私が見たニュース番組の中で高層マンションには他者との接触は余りしたくない、自分のプライバシーが守れる事が良いと言う方が多いと聞いておりますが、ここ東日本大震災以後変化がみられるようになったと言うことです。マンション内での交流が以前からあったようですが、一步外へ出て地域との交流も増えてきたと言うことです。

また、最近私が読んだ本に「坂の上の坂」と言う本があるのですか、これはあの有名な「坂の上の雲」をもじった本なのですが、これから私達が生きる時代は長く「坂の上には雲がある」わけでは無く「坂の上には、また坂がある」長

くなくて人生を「どう生きていくか」を説いている内容の本なのです。本日の講義も内容的にはこれに関係してくるような気がいたします。本日の講義を聞いて来年度へ向けて新しい社会教育の形を皆さんと議論していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

事務局)

ありがとうございました。続いて初谷教育長からご挨拶を頂きたいです。

初谷教育長)

皆さんこんにちは、風は冷たいですが漸く春めいてまいりました。お忙しい中第4回の会議にお集まり頂きましてありがとうございます。今回は委員の皆さんから頂いた作文を元に皆さんの社会教育に寄せる思いを語っていただき、大変長時間の会議となりました。本日はその続きとすることで千葉大学の関谷先生をお招きしております。委員の皆さんも作文作成については大変だったと思いますが、関谷先生にはそれに目を通して頂いたとすることで、これもまた大変だったのではないかと思います。また、本日はこれに関わって「市民と協働する地域自治」についての観点から本日は企画課協働班から担当者も見えております。先日生涯学習推進協議会の席上にでも担当者から説明があり委員の皆様から熱のこもったご意見多数頂戴いたしました。私たちはそれを結びつけて公民館、社会教育、生涯学習を考え推進していきたいと考えております。とかく生涯学習・社会教育の担当者はその中で足掻いてしまいがちな傾向があるようです。蘇我議長さんも本日は勉強の時間としたいとしますので私も謹んでお話を聞きたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

議長)

それでは講義に入る前に、副議長武田より講師の紹介をお願いしまして、講義に移らせて頂きたいと思っております。

副議長：武田)

[講師のプロフィール紹介](#)

**講師 関谷)**

[講師の講義：詳細は別添資料を参照](#)

議長)

折角の機会です。何かご質問などございますか。

内田委員)

事例を交えてのお話ありがとうございました。個人的に1999年から仲間と共に街づくり活動を開始したのですが、当初の活動から時間が経つとメンバーが少しずつではあるが減少してきてしまった。新たに地域の区長さんや学生などにも参加協力を頂き活動を展開しておりますが、発展させていくためにはどうしたらよいのか。

関谷講師)

異質なものの出会いを広げていくことがヒントだと考えます。すでに理想的な活動展開をなされていると思います。実践をしながら目に見える形で広げていくのは素晴らしいことと考えます。

例えば、子育て中の母親などに活動の輪を広げるなど、違う活動（異質なもの）している方にも視野を広げていくことも一つの手段だと考えます。街づくりとはストーリー作りと考えていくと豊かなイメージと一緒に展開の方向や手段が見えてくるものです。また一緒に実践でのフィードバックを行うことによってよりまた違う可能性が現れて深みのある事業内容となっていくと思います。

石井委員)

先生に3点おききします。

1. 地域では各種の社会教育活動に協力、実践して頂いている多くの人達がいるのですが、任期や時期が迫ると退任、退席していってしまう。どのようにしたら地域協力者に必要性（地域にとって）のある人材であるということを自覚させる方法はあるのでしょうか。
2. 今回の震災などの影響から日本中で一人暮らしの方や虐待などで親と一緒に暮らせない子どもなど多くの孤立しがちな人達が支援を求めているような場面を多くみるようになった。地域には団塊世代を迎えた多くの経験豊富な人材がいるのだが、公民館活動などに参加協力して頂けるのは固定されているように感じられる。地域にいる無関心な人達をどうしたら社会教育活動などに引きこめることができるのでしょうか。
3. また、若者（高校生・大学生など）のボランティアや協力者をどうやって地域活動へ取込んでいったらよいのか。

関谷講師)

一つ目の質問ですが、必要されていると感じる（実感）場を増やしていくことが一番大切です。それが気づきの場であり発見の場（ボランティア精神の根底）それを知ることによって自分の価値に気づいてくる。これは二つ目の質問にも関わってきますが、無

関心の方や自分の存在価値に気づいていない方の多くは、自分が地域にとって社会にとっての位置（必要性）付けを理解していない、又は気づいていない人達が大変多い。ですから社会教育の現場では多くの方達が自分の力の「気づき」の場面を設定できるように頑張ってもらいたい。

議 長)

時間がまいりましたが、企画課協働班の方が見えておりますが何かございますか。

企画課)

関谷先生の話は今後の私たちの事業を推進していく上で大変参考になりました。社会教育委員の皆様におかれましては改めて次の機会に私どもの事業説明をしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

議 長)

これにて会議を終了いたします。

平成24年 月 日

木更津市社会教育委員会議  
議長 蘇我 芳章